

## V 現 職 教 育

### 1. 研究主題・副主題

# 学び合って のびゆく子の育成

—主体的・対話的な深い学びをめざして—

### 2. 主題設定の理由

今年度も引き続き、研究主題を「学び合って のびゆく子の育成」とした。わたしたちは、一人一人の児童が友達の考えを認め、新たな発見をし、自分の考えの不足に気づき、お互いが関わり合いながらよりよい考えを見つけて「学び合う」姿を日々求めている。さらに「のびゆく子」とは、「自分で課題を見つけられる子」「進んで課題に取り組む子」「生活経験や既習の内容を生かす子」「粘り強く学習に取り組む子」ととらえてきた。

本校の児童の実態は、活動的でエネルギーにあふれている児童が多い反面、自己中心的で他人の話がなかなか聞けない、教師の指示や友達の話が最後まで聞けない、話し手の方を見て話を聞く力が弱いという苦手な面がある。そこで、児童一人一人に「相手意識をもって聞いたり話したりする力」をつけることが「学び合って のびゆく子」の育成に、よりつながっていくのではないかと考え、26年度は、－「話す力」「聞く力」をつける授業をめざして－という副題を設定し、研究に取り組んだ。その結果、わかりやすい話し方をする児童が増えてきた。わかりやすい話し方は、聞き手の聞く態度の育成にも有効であった。少しずつではあるが、相手を意識して話そう・聞こうとする姿が見られるようになってきた。しかし、自分の考えを説明する時に、根拠を明確に話したり筋道を立てて話したりすることは不十分であったため、27年度は、算数科を通して、自分の考えの根拠や筋道を意識して表現する児童の姿を求めて研究を続けた。28年度は、これまでの研究をさらに深め、成果を他の教科にもひろげたいと考え、国語科の研究も進めてきた。昨年度は、これまでの研究を受け、道徳科を中心に「主体的・対話的な学び」を模索し、研究を進めてきた。その結果、道徳科の授業研究で得た手立ては他教科にも繋がっていることを確信した。

これまでの取り組みにより、聞こうとする姿勢や聞き方に向上は見られるが、「自分の考えと友達の考えを比べて」「条件と照らし合わせながら」「何が大切なポイントかを見定めながら」など正確に聞くことに課題が見られる。また、話す時に根拠と考えがはっきりしていなかったり子ども同士の間合いの中で話し合いを高めたりすることにも課題が見られる。そこで、今年度、授業では「互いの考え方を交流し合い、集団の中で思考を練り上げたり、自分の考えを深めたりしていくという姿＝深い学びの姿」を目指し、児童の思考を促したり、根拠に基づいた考え方を持たせたりするための深めや問い返しの発問について研究を進めることで、上記、研究主題に迫りたい。

### 3. 主題のとらえ

#### 「学び合う」

友だちの考えを  
認める

新たな発見を  
する

自分の不足に  
気づく

よりよい考えを  
見つける

#### 「のびゆく子」

自分で課題を  
見つけられる子

進んで課題に  
取り組む子

生活経験や既習の  
内容を生かす子

粘り強く学習に  
取り組む子

## 4. 研究の仮説

副題を「主体的・対話的な深い学びをめざして」と設定する。本校では「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って、粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習につなげることができるような学びと捉える。「対話的な学び」とは、自分で考えたことを友達と議論したり意見交換したりすることであらたな考え方に気がついたり自分の考えをよりよいものとしたりするような学びと捉える。「主体的な学び」をすることで、課題意識を持ち、自己を見つめ、自分自身の考えをもち、粘り強く取り組もうとするであろう。また、「対話的な学び」をすることで、友達の考えとの共通点や相違点が明らかになり、友達とのかかわりから考えを深めることができるであろう。

主体的・対話的な学びのある授業にするために、次のような重点を設定する。

## 5. 研究の重点

### 重点1：児童が主体的な学びをするための工夫

- ①興味や問題意識を持つことができるように導入の工夫をする。
- ②ねらいを明確にし、問題意識をしっかりと持たせる
- ③必要感をもたせる

### 重点2：深い学びにつなげる工夫

- ①考えたくなる発問の精選（問い返し・深めの発問）
  - ②表現活動の工夫
  - ③書く活動の工夫
  - ④学習形態の工夫（ペア・グループ学習）
  - ⑤資料提示の工夫
- } 場の設定

このような授業づくりをすることで、「主体的・対話的な深い学び」の実現につながる。

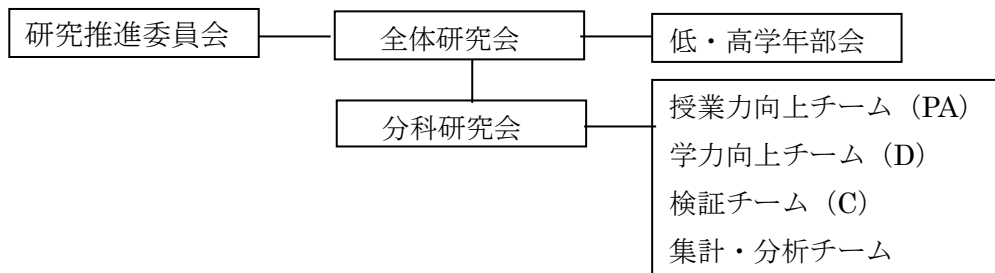
## 6. めざす児童像

副題の「主体的・対話的な深い学びをめざして」を、低中高学年でそれぞれの発達段階を考え、めざす児童像を設定した。このめざす児童像に迫るために、重点1、2を意識した授業展開を構成し、指導していく。

低学年	友だちの意見をよく聞き、自分の考えを表現する子
中学年	相手意識をもって、わけや説明をつけて、表現する子
高学年	言葉や図を使って、表現し、よりよい考えをみつけようと話し合う子

## 7. 研究の進め方

### (1) 研究組織



#### ・研究推進委員会

研究の方向・内容・進め方・研究構想図などの原案を作り、全体研究会および低・高部会に提起していく。

#### ・全体研究会

研究の方向・内容・進め方や研究授業について協議し、学校研究についての共通理解を図る。

#### ・低・高部会

授業を中心に実践研究を図る。

#### ・分科研究会

学力向上を含め、共通実践など校内の学習指導全般について協議し、提案する。

各種調査（全国学力調査・県学力調査など）を分析し、対応を検討する。

### (2) 方法

- ① 主題・副題を受けて、各部会で「めざす児童像」を確認する。
- ② 教科全般で研究を進める。(国語・算数・理科・社会・音楽)
- ③ 全員1回以上、研究授業を行う。
- ④ 低・高学年各1回（全体で2回 6月・10月）の全体研究授業を設定し、共通理解を深めながら進める場とする。全体研以外は、部会研とする。
- ⑤ 重点1、2を意識した授業の基本スタイルを作成し研究の方向性について共通理解を図る。
- ⑥ 先進校視察の報告や講師を招聘した学習会を行う。

### ○研究授業予定

	6月	7月	9月	10月	11月
低学年	船登	沖田	小野	山下・遠田	飯利
高学年	吉田	中村	林・辰巳	角谷	岡嶋・松本